説明的文章　段落の役割・要旨の捉え方

1　日本の建物を外国の建物とくらべたときに、日本は壁がひじょうにうすく、※柱立ちであることが大きな特徴です。それはなぜでしょうか。

2　日本では、石積みの建物とか煉瓦を使った建物はひじょうに少ないのです。奈良時代でも、わずかに平城宮には煉瓦を使うことがありましたが、ほとんど消えてしまいます。

3　日本では石があまり豊富でないということもあったのでしょう。しかし、おそらく日本の建物は※縄文時代以来、柱立ちができたために、煉瓦積みや石積みの壁が必要にならなかったのです。なぜ柱立ちができたかは、はっきりしています。日本は木が豊富だったからです。建築に適した木がたくさんあり、そういう木を使って建物を建ててきたのです。だからこそ日本は柱立ちができたのでしょう。おそらく世界的にこれほど柱立ちに徹していた国はありません。それは木が豊富だったからです。

4　地震との関係をいう人もいます。煉瓦積みや石積みの建物がないのは、それらが地震に弱いからだというのです。しかし、地震との関係が問題になってきたのは近代のことで、昔は地震のことなどはあまり考えていません。むしろ、木が豊富だからこそ柱立ちの建物に徹してきたということになるかと思います。

（佐原真『遺跡が語る日本人のくらし』岩波書店　による。一部表記を変えた箇所がある）

※柱立ち…柱が屋根を支えている構造。外国では、壁が屋根を支える構造が多くみられる。
縄文…原典では「縄紋」。

段落の役割と要旨

説明的文章を読むときには、各段落の文章中での役割に注目するとよい。

導入 話題提示 問い	話題に導く。話題を提示する。
根拠 具体例 答え	根拠を示す。例や対比を用いて具体的に説明をする。
まとめ 主張	説明をまとめる。筆者の主張を示す。

特に説明的文章では、「問い」を投げかけるかたちで**話題**が示されることが多い。「問い」と、それに対する「答え」に注目すると、文章の**要旨**（文章の中で最も伝えたいこと）を捉えやすくなる。

また、序論・本論・結論のまとまりにも注目するとよい。

- **序論**…話題を提示する。
- **本論**…事例や根拠を挙げて具体的に説明する。
- **結論**…内容をまとめる。主張を述べる。

（文章の構成の例）

- 頭括型　**結論**→本論
- 尾括型　（導入）本論→**結論**
- 双括型　**結論**→本論→**結論**

例題

本文の話題を問いかけの形で提示している段落を探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。ただし、句読点も一字に含む。

□□□ 〜 □□□

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 1〜3段落の関係を正しく述べたものを選びなさい。

ア 1段落で提示された話題について、2段落では筆者の立場から反論している。

イ 2段落で提示された内容に対して、3段落では対照的な事例を挙げている。

ウ 1段落で提示された問いに対して、3段落では答えとなる内容を説明している。

〔　　〕

(2) 3段落と4段落の関係を正しく述べたものを選びなさい。

ア 4段落では、それまでに挙げた見解を否定する事例を示し、3段落の内容に反論している。

イ 4段落では、3段落で述べた意見に対する根拠を示し、筆者の意見に説得力を持たせている。

ウ 4段落では、筆者とは異なる見解に反論しながら、3段落で示した意見を繰り返している。

〔　　〕

(3) 本文の要旨を選びなさい。

ア 日本の建物が柱立ちという特徴を持つのは、日本に木が豊富だったことと関係がある。

イ 日本には煉瓦を使った建物が少ないが、奈良時代の平城宮では煉瓦を使った例がある。

ウ 日本に煉瓦積みや石積みの建物が少ないのは、地震が多いことと関係するという人もいる。

〔　　〕